

多くは仏教用語や古語が元でばい

あたま使ってみらんね

大切にしたい私たちの方言

日常会話を方言でデザインしてみませんか。私たちの身の回りになふれるようになってきた標準語の陰に消えつつある方言。親しみが感じられる言葉たちを使って、みんなの心を響かせてみませんか。

- あんなー あのね
- いっちょん 少しも
- うしてる 捨ててしまう
- えだ 腕
- おこなえん たまらん
- かじめる 片付ける
- きばる 頑張る
- くっさり たくさん
- けったくる 蹴散らす
- こっちゃん こちらへ
- さんとき おやつ
- …しゃが …ならば
- すったくろ 怠け者
- せわらしか 多忙だ
- そってちゃー それでも
- たいせつ 大変 おおごと
- ちじゅむ 縮む
- つくれん 意味のない
- てんげ 手ぬぐい
- とつけむにゃー とんでもない
- なぎゃー 長い
- にたくろ ずばら 未熟
- ぬつか 暖かい 暑い
- ねずむ つねる
- のさん 耐えられない
- はいよ ください
- ひだりか 空腹だ
- ぶげんしゃ 金持ち
- へんぼ トンボ
- ほんちゃどん 主人格 本物
- まちっと もう少し
- みがん 寒暑の肌ざわり
- むぞらしか かわいらしい
- めじゃくし しゃもじ
- もだゆる 急ぐ あせる
- やおいかん 容易でない
- ゆーと 全然 少しも
- よごし 和え物
- らちのあかん 解決しない
- わさもん 初もの好き

オール豊野で咲かせる10万本のヒマワリが地域を明るく照らす



宇城市商工会 豊野地域活動委員会

長年、会員による相良神社の清掃活動を続け、ひまわり園のほか、アグリパーク豊野と連携した高齢者の買い物支援活動も行う。委員長 鋼鉄友幸さん、副委員長 岡村祐司さん、豊野支所長 古庄泰之さん。委員15人。

県内外から1万人以上を集める「うきうき豊野ひまわり園」が生まれたきっかけは熊本地震。落ち込んだ地元を明るくしたいと市商工会青年部豊野支部が「復興祭」を企画し開催した。翌年、子どもたちを笑顔にしたいという同支部の熱い想いに共感した住民が畑を提供してくれて「ひまわり園」が誕生する。開花に合わせて子どもたちを招き、ゆめ・豊野塾の協力の下、ピザ焼き体験や70歳のそうめん流しを行った。みんな喜んでくれたが、肝心のヒマワリはほとんど咲かず「成功するまで止められん」と継続を決意。



翌年、「豊野を盛り上げる」という共通した気持ちで、地域活動委員会、ゆめ・豊野塾、J A うき青壮年部、宇土法人会、アグリパーク豊野の「オール豊野」で作る実行委員会を立ち上げた。今では畑も広がり、協力者も増えた。10万本のヒマワリが、地域を明るく照らし始めている。

地元野菜のおいしさを食卓に届け 農業の未来を育む



宇城地方農業女性 野菜ソムリエの会

食に関する団体と連携した地産地消活動や子どもたちに食農教育として実習などを行う。会長 本村和代さん(小川町)、副会長 河野あけみさん(不知火町)、飯田真志子さん(小川町)。会員27人。

「もつと自分たちの農産物を消費者にPRしたい」「野菜のおいしい食べ方を提案したい」「野菜の栄養を伝える食育活動をしたい」そんな思いから結成された野菜ソムリエの会。会員は全て農業関係の女性で、野菜ソムリエの資格を取得し、仕事の傍ら料理講習会や食育などの活動を行っている。活動に使用する野菜は、自らが愛情を込めて育てたものや宇城産のものばかり。海あり山ありの豊かな自然で育てられる地元野菜の良さを伝えるために、道の駅うきサンサ

ンうきつ子宇城彩館」で野菜料理教室を年12回開催し、手作りのレシピを手渡して、そのおいしさを各家庭へ届けてきた。熊本地震後は災害時の深刻な野菜不足解消のために、乾燥野菜の普及に取り組み、そのレシピ集も作成。会員が野菜にかける想いは、生産者と消費者の交流を深めながら、食文化の理解に大きな役割を果たしている。野菜を通じた交流は、地域農業の洋洋たる未来を育んでいく。



地域の魅力を引き出し 活動する人々がいます

地域を想う気持ちが明るく未来をつくる。仲間と描き出す持続可能な宇城。

地域にある資源を活用し、地域活性化に取り組んでいる2つの団体を紹介します。その想いや地域との関わり方から、地域をデザインするヒントを探っていきましょう。